

# かまいい

第61号

平成31年3月15日  
釜石市教育委員会  
釜石市鈴子町15-2  
TEL 22-8832  
FAX 22-3633

2020年度から小学校で、  
2021年度から中学校で全  
面実施される新学習指導要領  
では、学習の基盤となる資質・  
能力の一つとして情報活用能  
力をあげています。そして、  
情報活用能力を育成するため  
には、各学校において日常的  
に情報技術を活用できる環境  
を整え、全ての教科等において、  
情報技術を適切に活用した学  
習活動の充実を図る必要があります。  
また、子どもたちが  
基本的な操作を習得するため  
の学習活動やプログラミング  
を体験しながら、コンピュー  
タに意図した処理を行わせる  
ために必要な論理的思考を身  
に付けるための学習活動を計  
画的に実施していくことが必  
要です。

## ICT機器整備

教育委員会では、平成28年度、  
平成29年度の2カ年に渡り、  
文部科学省のICT活用教育  
アドバイザー派遣事業による  
アドバイザーから助言をいた  
だきながら、今年度9月までに、  
市内全ての小・中学校普通教  
室・特別支援教室に電子黒板、

## 効果的な活用に向けて



タブレットPCを活用した理科の  
ICT活用授業公開（釜石中学校）

9月19日（水）釜石市情報教育担当者研修会を開催し、岩手大学教育学部 宮川洋一教授から御講話いただき、「これからのICT活用教育・プログラミング教育について」理解を深めることができました。  
また、教育研究所授業づくり研究班では、各教科でのICT機器の効果的な活用について研究・授業実践を重ね、子

## より深い学びへ、効果的な活用のために

## ～釜石市ICT活用教育の推進について～

全教職員及び生徒用1学級分  
のタブレットの整備を完了し  
ました。現在、市内小・中学  
校では、各授業でICT機器  
を効果的に活用した授業を進  
めているところです。

平成28年度から釜石市では、  
平田小学校・大平中学校2校  
がICT活用モデル校として  
先進的に取組を実施していま  
す。今年度平田小学校からは、  
来年度から必修化となる「プ  
ログラミング教育」について  
授業提供をいただきました。  
市内小中学校の先生方にも授  
業の様子を参観いただき、こ  
れからの教育につなげていた  
だく機会となりました。今後  
も引き続き、プログラミング  
教育、情報モラル教育等、未  
來を担う子どもたちに必要な  
ICT活用教育を推進してま  
ります。



プログラミング教育授業公開（平田小学校）  
「宇宙旅行をしよう」総合的な学習の時間

プログラミング教育・  
情報モラル教育

どもたちが興味を深め、分  
かりやすく学ぶための具体的な  
面について、多くの活用方法  
を提案していただいています。

## 『指定文化財展III』成功裏に

指定文化財は、先人より受け  
継ぎ、語り継がれてきた釜  
石市にとって文化と歴史を伝  
える重要な文化財です。これを、  
広く公開し、市民の皆様にも  
深く知つていただくため、第  
18回釜石市有形文化財公開事  
業「指定文化財展III」を、2  
月1・2・3日（金・土・日）  
の3日間釜石市民ホールTE  
TTOホールBで開催いたし  
ました。

有形文化財公開事業は、昭  
和56年の「鳳山展」から始ま  
り今年で18回目となりました。  
震災前の平成22年1月に第17  
回を開催して以来、約9年ぶ  
りの開催となりました。



オープニングセレモニー

## 文化財通信

今回、展示した文化財は「指定文化財Ⅲ」と題し、県指定、市指定の文化財を中心に展示いたしました。

財保護審議会長板澤利幸氏にご講演をいただきました。

普段見ることのできない貴重な文化財は、慎重かつ丁寧に取り扱う必要があり常に緊張感のある中で展示を行いましたが、開会後の展示室内は、終始観覧者が途切れることはありませんでした。

アンケートでは皆様から、「釜石にもこのようないい文化財があることに驚きました。」「知らないことが多く勉強となつた。」「審議委員の方々から説明解説をいただきとても分かりやすかったです。」といったご感想、

最後に、ご来場いただきました市民の皆様、資料提供にご協力いただきました所有者の皆様に深く感謝を申し上げます。

感想をいただきました。

今年度第2回目となつた「かまいし絆会議～未来への第一歩～」が12月26日（水）に釜石中学校を会場に行われました。

初めに、独自ボランティア「いわて・かまいしラグビー応援団」の応募申込受付書を、副市長から専門部会のリーダーに贈呈していただきました。その後、副市長からは東日本大震災からの復興支援に対し「ありがとうございます」との気持ちを伝える取組、復興支援で深まつた絆を広げる取組への感謝の言葉をいただきました。さらに今後の取組への期待と一緒にラグビーワールドカップを成功させましょうという力強い言葉もいただきました。

また、釜石市内全小・中学生に「いわて・かまいしラグビー応援団」のステッカーが送られました。2学期には中学生の専門部員による話合いが行われました。各小・中学校から壁画のデザインに入れたい絵や言葉、またPRビデオで使う歌の歌詞に入れたいフレーズや言葉を募集しました。それを基に、デザインや歌詞が決定されました。会議では、それぞれの専門

## かまいし絆会議～未来への第一歩～

### 今後について

完成した歌の披露は、ラグビーワールドカップの関連イベントでの発表が目標です。

今後、発表に向け、各校で練習を重ねることとなります。

また、それぞれの中学校区で取り組む活動についても、具体的に話し合いました。

「ラグビーについて学ぶ機会を設ける」、「外国语でのあいさつを行う」など様々なアイディアが出されています。各校での主体的な活動を通して子どもたちの成長も大変楽しめます。

### ■壁画について

デザインには、ラグビー、ボールや虎舞、SL銀河など、釜石を象徴する絵を組み入れることとなりました。

会議では壁画に使用するホタテ貝に実際に色塗りをしました。

3学期には各校で色塗りを行うことから、子どもたちは準備する物、塗り方の手順を確認しながら作業を行いました。

### ■歌について

歌詞は、震災後に心を寄せてくれた人達、友達、家族、ラグビーワールドカップ開催に力を尽くしている人達みんなに「ありがとうございます」との思いが伝わるものとなりました。曲のタイトルは「ありがとうございますの手紙 #Thank you From KAMAISHI」です。



展示会場内の様子



講演会

第18回有形文化財公開事業  
指定文化財展Ⅲ  
来場者数 合計 323人  
講演会「我が郷土の文化財」  
来場者数 75人



教え合いながらのホタテの貝殻の色塗り

「社会を強く生き抜く力の育成を目指して」

第41回釜石市教育研究所研究発表大会が開催され、午前中は保健福祉センター、青葉ビル、市民ホールTETTOの各会場で研究班・幼保小連携推進委員会（こころの教育研究班・分科会）を行い、午後は市内小中学校教職員の他、市内の幼稚園、こども園、保育園、PTA関係者も含めて計260名が市民ホールTETTOに一堂に会しました。

「こころの教育研究班」では、「考え方・議論する」とことを意図的に設定した授業実践を通して、研究テーマ「主体的によりよい生き方を目指す子どもの育成」を考え、議論する道徳授業を通じて「」に迫りました。発表者からは主体的に考えを深めて多様な意見を出し、互いの考え方から学び、自分の行動を向上させたいと思う児童生徒が増えってきたこと、また、「考え方・議論する」道徳の授業づくりが、授業開始時の資料提示の工夫やねらいに沿った発問の吟味につながると、いつた成果が出されました。

「授業づくり研究班」では、

## 所感用紙より(授業づくり)

今年度導入されたICT機器の効果的な活用をさぐる実践研究発表は大変参考になった。授業のどの場面で何のために使用するかを授業者がよく考えて使うことが大事で、使用が目的ではないということを押さえておきたい。

### 所感用紙より(学級づくり)

特にすばらしいと思ったのは子どもたちの話し合う力がついていることだった。学級をよりよくしていくとアイディアを出し合い、よい「作戦」を考えるところまで話し合う力は、各教科にも生かされる力だと思った。学級づくりは授業づくりの基本であることを改めて考えさせられた発表であった。

続いて、目立特別支援教育総合研究所・総括研究員 久保山茂樹先生から、誰もが相互に多様な在り方を認め合える全員参加型の共生社会の形成に



国立特別支援教育総合研究所の先生方

供こそが事務職員の使命」という言葉に象徴される熱意あふれた発表で、子どもたちのためには学校一丸となつて取り組んでいたことを再確認することができました。

午後は、まず、学校事務の共同実施釜石西グループがＩＣＴ教育支援について全体発表を行いました。発行される釜石ＩＣＴ通信を蓄積していくことで機器活用のマニュアル化ができることや、新設した「釜石教育ポータルサイト」の紹介など、「教師のひと手間を省く利便性の提

流のあり方についても探しました。幼保小連携の上で大切にしたいことや教師の役割とよりよい交流のあり方について迫つた発表となりました。

を最大限伸長し、活力ある釜石市の未来につながっていくと説かれました。市内の全教職員、行政関係者、保護者等、地域の方々も参会し、将来の釜石に思いを馳せながら教育の現状と今後の方向性を考えることができた有意義な会となりました。

**所感用紙より(幼保小連携)**

接続カリキュラムを土台にしてスタートカリキュラムを作成した上での交流について伺い、とても参考になりました。年長は小学校に入ると一番下の学年ということで、支援が多く集まる傾向があるが、できていることを把握しつつ伸びしていく視点が大切だという言葉に共感しました。

所感用紙より(こころの教育)

唐丹中、小佐野小の授業に共通していたことは、互いの主張に心を開き、認め合うことができる学級経営が根本にあることです。形の議論ではなく、意見を交流することで互いに高め合うために授業者がねらいを明確にもち、発言をコーディネートすることが大切であることを学びました。

所感用紙より(幼保小連携)

接続カリキュラムを土台にしてスタートカリキュラムを作成したまでの交流について伺い、とても参考になりました。年長は小学校に入ると一番下の学年ということで、支援が多く集まる傾向があるが、でされていることを把握しつつ伸びしていく視点が大切だという言葉に共感しました。

